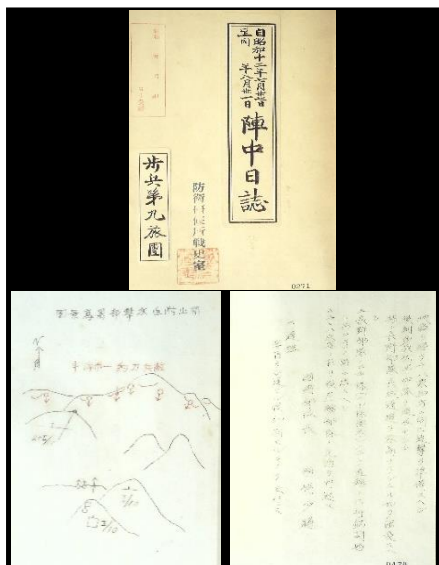


．．．．．「史料のなかの軍人たち — 知られざる素顔 — 」．．．．．

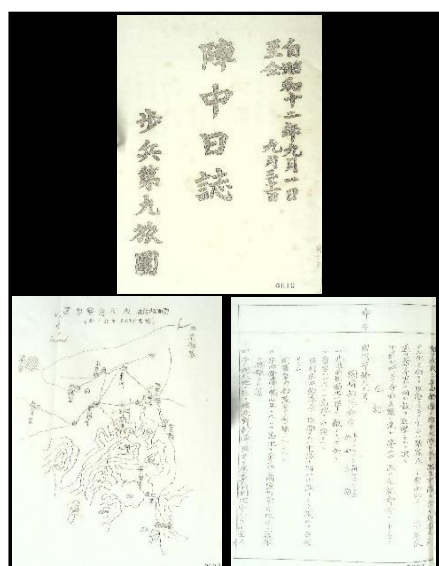
戦史研究センター史料室では、陸海軍軍人の中から毎月一人を取り上げて、その人物などに関連する史料を紹介しています。

《 陸軍中佐 ^{すぎもと}杉本 ^{ごろう}五郎 1900～1937年〔広島〕 》
— 「軍神」と称された中隊長 —



歩兵第九旅団陣中日誌 昭和12.7.27～8.31 (登録番号:支那-支那事変北支-231)

杉本は、大正8年陸軍士官学校に入校、「軍人は我執を捨て、生死を超越、盡忠報国でなければならない」として、その悟りを禅に求めたといわれます。10年7月同校卒業(33期)、10月少尉任官、広島歩兵第11連隊付となった杉本は、連日泊まり込み、兵と起居をともしました。13年10月中尉、昭和6年8月大尉と進級した杉本は、9月同連隊第2中隊長になります。杉本は、平素の修養及び信条から、中隊長の規範は軍人勅諭にあると考えたといわれ、自らの中隊を「一死を以て国に殉じる中隊」、「死の中隊」と名付け、統率の方針としました。また毎日、中隊長以下、「我等は、陛下の股肱なり。団結。上は下を愛し、下は上を敬う」と唱へ、訓練、兵営生活に励みました。12年7月、支那事変が勃発、杉本は、8月1日少佐に進級、翌2日、歩兵第11連隊第2中隊長(長野部隊杉本隊長)として中国に出征、北支戦線を転戦します。



歩兵第九旅団陣中日誌 昭和12.9.1～9.30 (登録番号:支那-支那事変北支-232)

昭和12年9月13日、山西省広靈西南地区への追撃を決心した国崎登第9旅団長は、要塞化された閻山高地攻略のため、旅団直轄となった杉本中隊長に、閻山山西側1600高地奪取を命じました。翌14日午前4時頃、弾丸雨飛の下、杉本は、絶筆「汝我を見んとせば尊皇に生きよ、尊皇のある所常に吾在り」を遺し、「死して盡忠報国に生きるはこの時だぞ、皆一致団結せよ」と訓示しました。杉本は、高地中腹の岩陰から先頭に立ち頂上の敵陣地に突入しました。白兵戦で敵は敗走しましたが、その時、破裂した手榴弾の破片が杉本の肩を襲いました。当番兵の回想には、杉本は一度倒れるように伏せたが立ち上がり、右手で東京の空の方へ敬礼をし、左手で剣をつけて立ったまま絶命した、とあります(『歩兵第十一聯隊史』)。戦死後中佐に進級、「軍神」と讃えられます。左掲の二つの史料は、杉本中隊長の行動を記している第9旅団の戦闘詳報です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>